

(宇治市未来キャンパス 最終発表)

地域コミュニティの活性化

小倉地域の老ノ木集会所を活かす

同志社女子大学1回生 鎌倉朱里

奈良県立大学2回生 岡本果音

立命館大学3回生 山内麻結美

目次

- 01 設定背景
- 02 N=1は誰か？
- 03 どのように解決するか
- 04 今後の展望
- 05 FBが欲しい点



設定背景

まちの縁側促進事業の一環である、ワークショップに参加

地域の現状をヒアリングする中で3つの課題が浮かび上がった。

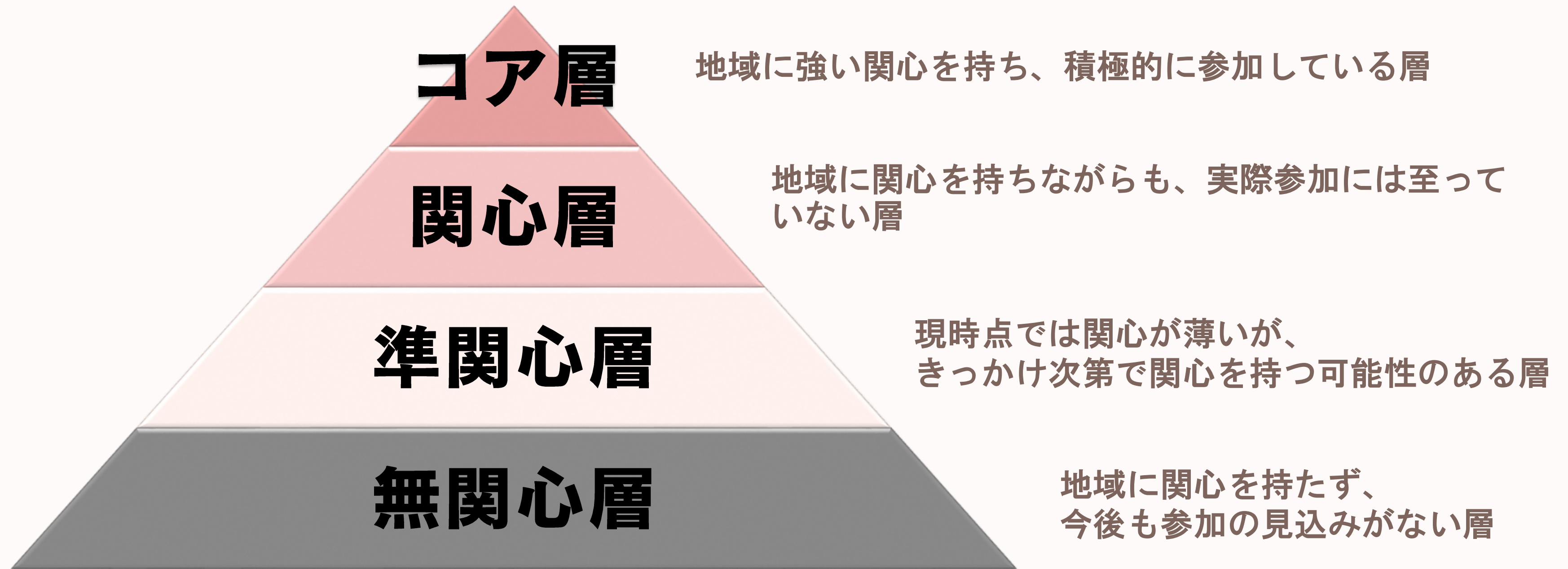


01 | 町内会を抜ける人が多い

02 | 気軽に立ち寄れる場所がない

03 | 多世代交流の機会がない

N=1

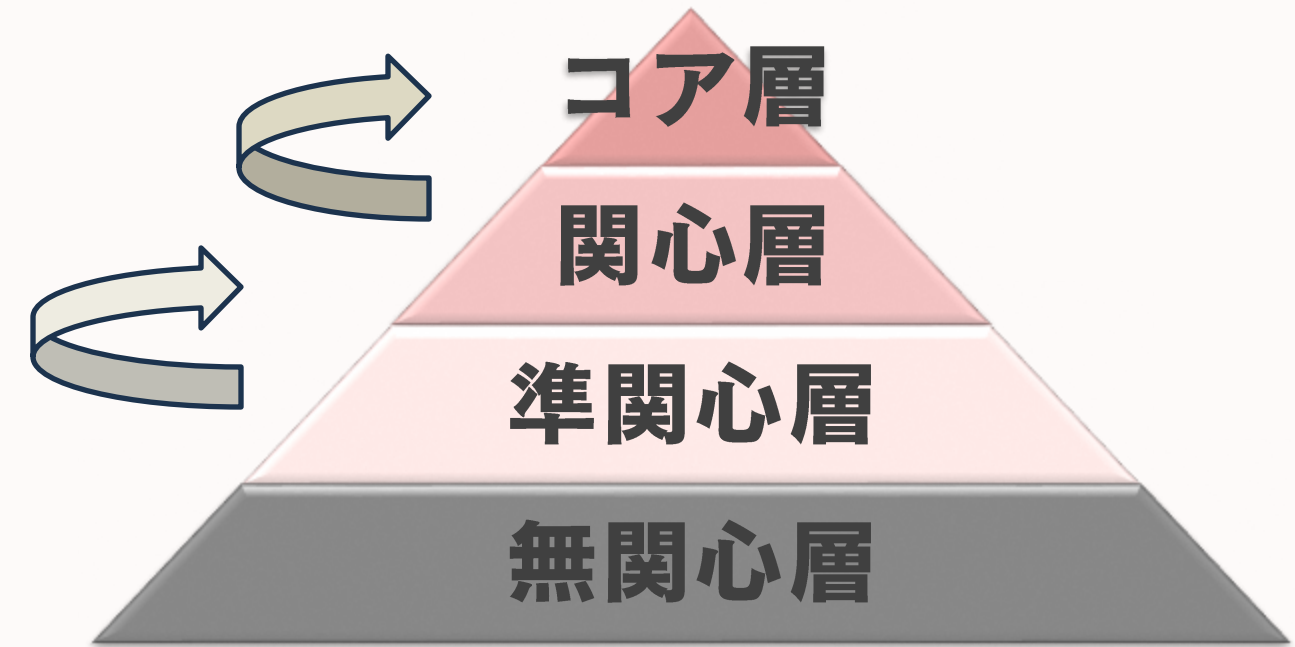


N=1 関心層・準関心層を呼び込みたいと考えるコア層

理想状態

1 関心層・準関心層を 一つ上の段階に持っていく

- ・ 地域をより活性化させたい

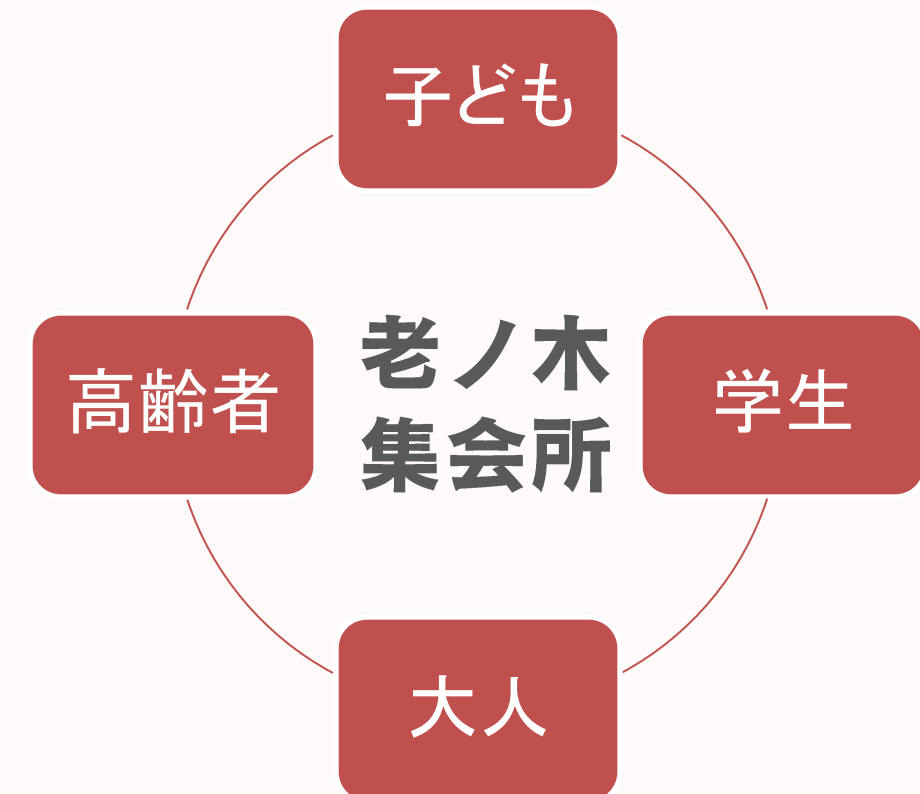


2 老ノ木集会所の活性化と集会所からのコミュニティづくり

- ・ 町内の人気が気軽に立ち寄れる場所に
- ・ 多世代で交流をしたい

3 顔の見える関係をつくる

- ・ 災害時などの支え合い



どのように解決するのか？

イベントによる交流のきっかけづくり

- ・老ノ木集会所を活用し、地域住民が気軽に立ち寄れる場をつくる。
- ・子育て世代や高齢者など、多世代が自然に交わることで、日常的に顔の見える関係を広げていく。

今後の展望

10月(実証実験)

集会所を実験的に定期開放

- ・ 地域住民が気軽に立ち寄れるフリースペース
- ・ 偶発的な出会いや自然な交流を観察
- ・ 交流のきっかけになる工夫を試行
- ・ 地域において定期的に人が集まる場としての価値や、集会所の認知向上を実証

11/8(防災イベント)

世代を問わず楽しめるゲーム型の交流企画

- ・ 防災イベントの1ブースを担当
- ・ 世代を問わず楽しめるゲーム型企画で自然な交流を促進

FBが欲しい点

①多世代交流を生み出す工夫について

②関心層・準関心層へのアプローチについて



ご清聴ありがとうございました